

充実の救急医療体制で脳卒中患者を救う

予防から社会復帰までを包括的にケア

医療法人社団
英明会

大西脳神経外科病院

短時間で適切な診断、治療 症状に応じた治療で救命

「脳卒中と一口に言っても、症状や状態、患者さんの年齢、体力などによって総合的に判断して治療を行うことが求められます」

脳神経外科の専門病院として全国的にも名を知られる大西脳神経外科病院の大西英之院長は、適切な治療を迅速に行うことが、脳卒中救命の分かれ目になると語る。さらに急性期の治療は時間との勝負になる。たとえば脳梗塞に有効な血栓溶解薬治療（tPA治療）が可能なのは、発症後3時間に限られる。

**日本初、救急隊との連携を高める
プレホスピタルレコードの導入**

ここで威力を発揮するのが、同院が日本で初めて導入した「プレホスピタルレコード」だ。プレホスピタルレコードには運動麻痺、痙攣、脳卒中スケールなどの項目が設けられ、救急隊員が疾患を選別、専門病院を選択し、搬送できるようにしている。救急隊との連携と並んで重要なのが、患者自身の脳卒中への危機意識。

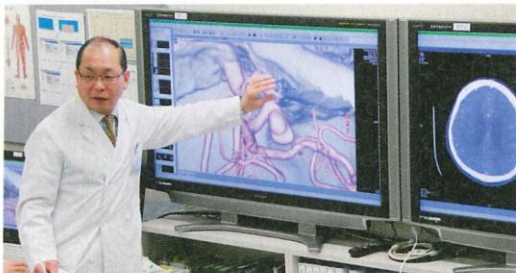
「脳血管障害のTIA（一過性脳虚血発作）は、時間が経つと収まる場合もある。しかし、それは脳梗塞のアラームサイン。これを見逃さず治療を受け

ることが大切です」

大西院長は意識水準向上のため、地域の医療従事者勉強会、患者や家族のための市民講座、オープンホスピタルなど、啓蒙の機会を求めて活動を続けている。また自覚症状のない人にも、予防措置として有効な脳ドックを積極的に推奨している。

治療からリハビリ、社会復帰まで SCUによる総合的サポート

「脳卒中治療は、急性期から治療期、そしてリハビリ期までを包括的に治療して初めて成果が上がる」というのが大西院長の持論。同院では医師、看護師、薬剤師はもちろん、栄養士、理学



CT、MRI画像などのデータを統合、分析できるワークステーションを駆使し、患者一人ひとりに最適な治療を検討する



質の高い治療の根幹を支える手術技術。日々研鑽を重ねる医師を揃え、手術件数は全国トップクラスの実績を残している

「救える患者をいかに救うか」大西脳神経外科病院の真摯な取り組みは続く。

「生命を尊厳し、科学の心と芸術的技術と人間愛をもって病める人々に奉仕する」が同院の理念。医師の技術、機器、設備の充実はもちろんだが「一番大切なのは患者さんに誠意を持って治療に当たること」と、大西院長は繰り返す。「連携強化や啓蒙の努力で救える患者さんが増えたときに受け入れられる土台を作ること」を目的に、2013年4月には新病棟が完成、増床を予定している。



理事長・院長 大西 英之

日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医、日本脳神経外科学会代議員・評議院、日本脳卒中学会評議員、日本脳腫瘍の外科学会評議員、日本頭蓋底外科学会理事など

2013年4月完成予定の新病棟は40床を増床。救急患者に対応する



医療法人社団 英明会
大西脳神経外科病院

【診療科目】脳神経外科・神経内科・放射線科
リハビリテーション科
麻酔科(鈴木夕希子)

【受付時間】月～金 8:30～11:30
13:30～16:30

【休診日】土・日・祝日 【病床数】82床

〒674-0064 兵庫県明石市大久保町江井島 1661-1
TEL.078-938-1238 FAX.078-938-1236
<http://www.onc.akashi.hyogo.jp/>